片添ヶ浜海水浴場

日本の源流再発見 File 2

山口県大島郡周防大島町　**瀬戸内のハワイ**

周防大島町は、周防大島（屋代島）と、その周辺の島々から成ります。明治から大正にかけて多くの住民が移民としてハワイへ渡り、その縁もあって1963年ハワイのカウアイ島と姉妹島提携しました。以後両島は、青少年の相互派遣や文化交流を続けており、周防大島ではさまざまな文化を楽しめるようになっています。

ヤシの木が生い茂る瀬戸内のハワイ

瀬戸内のハワイと呼ばれる周防大島は、約18,000人が住む瀬戸内海では3番目に大きな島です。山口県柳井市とは橋で結ばれており、地続きのような便利さですが、島を訪れた人は本州の風景と明らかに違う印象を受けるはず。なぜなら、橋を渡るとすぐにヤシの木が出迎え、まるで南洋のような雰囲気が味わえるからです。特に片添ヶ浜海水浴場は、ビーチ脇にヤシ並木が続き、まさにハワイ。毎年7月中頃から8月末までの毎土曜日には「サタデーフラ（サタフラ）」が開催され、全国から100組以上のフラダンスチームが参加します。その会場の一つである宿泊滞在型スポーツ施設「グリーンステイながうら」は、とりわけハワイらしさが感じられます。受付・売店があるビジターセンターは姉妹島であるカウアイ島の市庁舎を、レストランやログハウスもカウアイ島の民家をモデルに作られており、ハワイらしさを満喫できます。

周防大島とハワイの関係は、1885（明治18）年の官約移民※で、305人の島民がハワイへ渡ったことに始まります。官約移民が終了する1894（明治27）年までの10年間に、周防大島からハワイへ移住した人は約3,900人にものぼり、移住者の多さから「ハワイ移民の島」ともいわれました。貧しい島の暮らしから抜け出そうとハワイに向かった人々は、ハワイでも過酷なプランテーションでの労働に明け暮れましたが、徐々に新たな社会を築いていきます。

道の駅 サザンセトとうわ

その移民たちの歴史は、町営の「日本ハワイ移民資料館」でしのぶことが

All Rights Reserved,Copyright ©2017,Hitachi,Ltd.

▲ 日本ハワイ移民史料館
第1回官約移民のうち、3割が大島郡の人々だったといわれています。移民当時の様子をフィルムで見ることができるシアタールームもあります

▲ 真宮島
道の駅 サザンセトとうわ近くにある無人島。干潮の前後約3時間のみ海の中道を通って島に渡ることができます

▲ グリーンステイながうら
レストランなどを含む複合施設。周防大島の伝統湯として知られる海水をくみ上げて沸かす「潮風呂」の施設もあります

▲ TIKI（ティキ）像
島内にはカウアイ島姉妹島提携50周年を記念して2013年に作られた、重量約1トンの原木から彫り上げられた5体のTIKI像があります

できます。資料館では、日本全国からハワイに渡ったすべての官約移民の情報をデータ化。さらに、その後のハワイ移民名簿も閲覧できます。ハワイの日系人が訪れては祖先の名前を見つけ、喜ぶそうです。資料館の見どころは資料だけではありません。その建物は、かつて米国に渡った福元氏が帰国後の1928（昭和3）年に約3万円（現在の金額にして推定3億円以上）で建てたすばらしい日本家屋・旧福元邸を再利用しています。柱や梁（はり）はしっかりと太く、欄間や建具の造作も見事。建物だけでも一見の価値ありです。

島の特産品や郷土料理なら、「道の駅 サザンセトとうわ」が充実しています。みかんジュースやゼリー、ひじきなどが人気。同店のすぐ裏には干潮時に道ができ、その間だけ歩いて渡れる真宮島（しんぐうじま）があり、こちらも必見です。

※ ハワイ政府と明治政府が結んだ契約に基づく移住制度

ココに注目

地魚のほぐし身と麦みそで作る「じんだ味噌」に天ぷらを添えたお茶漬け「天茶」は、ここでしか味わえない「食在周防あらかわ」の逸品。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた周防大島のある山口県には日立製鉄道車両の製造拠点である日立製作所 笠戸事業所があります。新幹線をはじめ、特急電車やモノレールなどを独自の車両生産コンセプトを生かし、環境負荷の低い車両を提供しています。

株式会社 日立製作所 鉄道ビジネスユニット 笠戸事業所　山口県下松市大字東豊井794番地
http://www.hitachi.co.jp/products/infrastructure/product_solution/mobility/

All Rights Reserved,Copyright ©2017,Hitachi,Ltd.